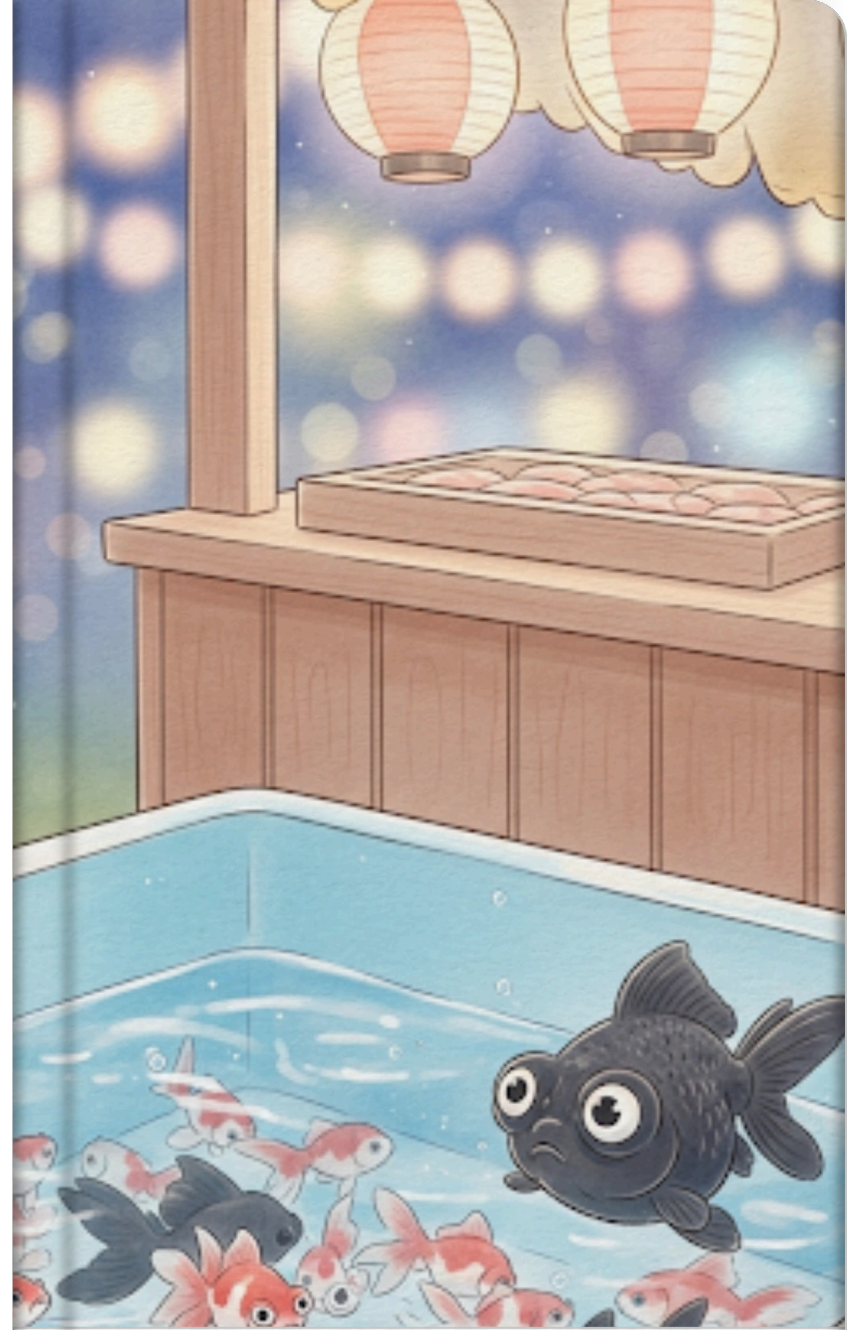




ポニョのあたらしいおうち



にぎやかな夏祭りの夜。
赤や黒、色とりどりの金
魚たちの中で、全身まっ
くろな出目金のポニョ
は、すこしだけ心細く思
っていました。「だれ
か、僕を見つけてくれる
かな？」



金魚すくいの屋台に、ゆいちゃんという女の子がやってきました。お父さんと一緒に、どの子にしようか一生懸命のぞき込んでいます。「あ！あの子がいい！」ゆいちゃんは、隅っこにいたポニョを見つけました。



ゆいちゃんは、ピンク色の
枠のポイをそっと水の中
に入れました。白い網
で、やさしく、やさし
く。ポニョの下にポイを
滑り込ませ、ゆっくりと
持ち上げます。やった！
ポニョは、ゆいちゃんの
優しい手にすくい上げら
れました。



おうちに帰る道。ポニョ
は、ゆいちゃんが持つ水
の入った袋の中から、ぼ
んやりと流れていくお祭
りの灯りを眺めていまし
た。ゆいちゃんが「大丈
夫だよ」と話しかけてく
れる声が、ぽちゃん、ぽ
ちゃんと水に響きます。



「ただいま！」おうちでは、お母さんがにこにこして迎えてくれました。
「見て！新しい家族だよ。名前はポニョ！」ゆいちゃんが言うと、お母さんは「まあ、かわいいわね。ようこそ、ポニョ」と優しく言いました。



お父さんが、ポニョのために素敵なおうちを用意してくれました。ピカピカに磨かれた丸い金魚鉢に、きれいな色の石と、小さな緑の水草をそっと入れてくれます。「ここなら快適だろう」



ゆいちゃんが袋を傾けると、ポニョはつるん！と新しいおうちの中へ。広々として、なんて気持ちがいいんでしょう！ポニョは嬉しくて、水草の周りをくるくる、すいすいと何度も泳ぎました。



その夜、家族みんなが金魚鉢の前に集まりました。「ポニョ、おやすみ」ゆいちゃんがガラスにそっと指で触れると、ポニョはしっぽをふりふりして、まるで「おやすみ」と答えているようでした。



次の日の朝。「ポニョ、おはよう！」ゆいちゃんが声をかけると、ポニョは水面に上がってきます。パラパラと落ちてくるごはんを、ぱくぱく。毎日ゆいちゃんに会えるのが、ポニョの一番の楽しみになりました。



ポニョはもう、ひとりぼ
っちではありません。ゆ
いちゃんと、お父さん
と、お母さん。温かい家
族に囲まれて、まっくろ
な出目金のポニョは、世
界で一番幸せな金魚にな
りました。